

平成21年度 教育行政評価 No5 (自己評価)

事務事業名 (予算事業名)	小学校少人数学級編制事業（市費負担教職員給与費）	担当	部 名	教育委員会
			課 名	教育総務課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	① 基礎・基本の定着を図る教育の充実

2 事業概要

目的	鹿嶋市の地域性を活かして自分の生き方を創造し、それによって地域の人々と豊かな生活を築いて行こうとする「鹿嶋っ子」を育成し、主体的に学ぶ意欲を持ち、達成感や充実感を味わいながら自らの課題を発見、解決できる力を育てる教育環境整備のため、小学校1年生及び小学校2年生で少人数学級を編制します。			
対象及び規模	対象	小学校1年生及び2年生	規模	858人

3 実績

	市独自に教諭を11名採用・配置し、全ての小学校の1年生及び2年生で一学級30人以下の少人数学級編制を行いました。また、教育指導員を配置し、市費負担教職員に対する支援体制を確立し、研修や相談等を随時行っています。学校評価のアンケートでは「個に応じた支援」の項目で保護者の80%以上が肯定的な評価をしており、将来を担う人材を育成するためには効果的な事業です。		
--	---	--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	児童数の変化に迅速に対応できないため、学級数が増えた際の対応策が必要です。
改善策	学級数増えに伴う対応策について、県基準を参考に配置基準を定めます。

平成21年度 教育行政評価 No6 (自己評価)

事務事業名 (予算事業名)	小学校専科教員配置事業・TT, AT配置事業 (小学校教育振興支援事業)	担当	部 名	教育委員会
			課 名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	① 基礎・基本の定着を図る教育の充実

2 事業概要

目的	鹿嶋市の地域性を活かして自分の生き方を創造し、それによって地域の人々と豊かな生活を築いて行こうとする「鹿嶋っ子」を育成し、主体的に学ぶ意欲を持ち、達成感や充実感を味わいながら自らの課題を発見、解決できる力を育てる教育環境を整備するため、小学校に専科教員・TT, ATを配置します。			
対象及び規模	対象	小学生	規模	3,847人

3 実績

	個別指導、専門的指導を充実するためには、それぞれのノウハウをもった人材の配置が最適であると考えます。そのため、採用の際には選考試験を行い、採用後も特別な支援を要する児童に対する支援等の研修を行い、採用した職員の資質向上も行いました。 TT・ATについては、学校の実態に合わせ、配置しています。専科担当非常勤講師は、2校に配置しました。		
--	--	--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	多くの予算を必要とし、また、採用職員に既婚女性が多く、勤務時間を延ばすことが難しいため、現在の勤務時間の中で、教職員間の情報共有の時間をどのように確保するかが課題です。
改善策	より専門的な指導を行うことで、教職員間の情報共有の時間が少ないながらも、子どもに対し効果的な支援が行えると考えます。そのため、鹿嶋師範塾等で専門的な講座を開講し、職員に受講機会を持たせるとともに、指導主事による学校訪問の際に、具体的な事例を取り上げながら情報の共有を図っていきます。

平成21年度 教育行政評価 No7 (自己評価)

事務事業名 (予算事業名)	CDTテスト(観点別学力到達度診断テスト)の実施 (教職員指導対策費)	担 当	部 名 課 名	教育委員会 鹿嶋っ子育成課
------------------	--	--------	------------	------------------

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	① 基礎・基本の定着を図る教育の充実

2 事業概要

目 的	CDTテスト(観点別学力到達度診断テスト)を実施し、結果の分析を行い、個別指導に役立てることにより、児童生徒の学力の向上を図ります。			
対象及び規模	対象	小学生及び中学生	規模	5,640人

3 実 績

	児童生徒一人ひとりの学習到達度を把握する上では効果的ですが、教育課程の関係で年度末(2~3月)の実施となりました。このため、結果を基に個別指導の時間を確保することが難しい状況にあり、本事業の実施について見直しをしていく必要があります。			
--	---	--	--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	児童生徒一人ひとりの学習到達度を把握し、個別指導に活かしていくためにCDTテストをいつ実施すべきか、併せて他のテストとの兼ね合いをどうするか、また、全国学力・学習状況調査が抽出校方式での実施となった今、抽出されなかった学校に対しての学力・学習状況調査をどのように実施していくかが課題です。			
改 善 策	年度始めに実施される県の学力診断テストの結果を十分に分析し、それを基に個別指導の手立てを考えていきます。全国学力・学習状況調査に抽出されなかった学校に対しても、同様に実施し各校で学力・学習調査の分析を行い、個別指導に活かしていきます。また、年度末には、CDTテストの代わりに前年度の県の学力診断テスト等を実施し、学習到達度の把握に努めます。			

平成21年度 教育行政評価 No8 (自己評価)

事務事業名 (予算事業名)	学校給食供給事業(学校給食センター経費)	担 当	部 名 課 名	教育委員会 学校給食センター
------------------	----------------------	--------	------------	-------------------

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	② 健やかな心身を育む教育の充実

2 事業概要

目 的	市立幼稚園・小学校・中学校の園児・児童生徒及び教職員に安心して安全な学校給食を提供するため、施設を良好に管理運営します。			
対象及び規模	対象	市立幼稚園児・小学生・中学生	規模	6,121人

3 実 績

	諸物価の動向に左右される不安はあるものの、安定的に安全な学校給食を供給しています。また、各幼稚園・小学校・中学校のリクエスト給食を11回実施しています。 鹿嶋市産食材の導入を計画的に進めていますが、鹿嶋市産の食材を中心(主菜を除く)に使用した給食の提供は、1回のみという結果になっています。			
--	--	--	--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	鹿嶋市産食材を多用したいと考えていますが、供給体制を確立するまでに至っていません。			
改 善 策	鹿嶋市産食材の使用率を上げるために、供給体制の確立について検討していきます。また、現在は食材の産地を国内に限定していますが、品不足等不測の事態に備え、外国産食材を使用するなどの対策についても研究をしていきます。また、鹿嶋市産食材を中心とした献立を、今後は年4回以上提供できるよう努力していきます。			

平成21年度 教育行政評価 No9 (自己評価)

事務事業名 (予算事業名)	子ども英会話講座(生涯学習推進事業)	担当	部名	市民協働部
			課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	④ 学校支援体制の充実

2 事業概要

目的	鹿嶋市の英語教育を補完し、学校を越え、異年令の児童が学校以外において楽しく遊び・学ぶ講座として生涯学習の視点から「子ども英会話講座」として実施します。			
対象及び規模	対象	小学校3年生から6年生	規模	75人

3 実績

	<p>全小学校に英語教育が進んだことを受けて、学校内での英語教育とは異なり、各学校との交わり、異年齢集団での遊びを通して学ぶ英会話講座は、重要であるとの指導主事の意見をもとに継続し実施しています。</p> <p>平成21年度、新たに小学校3年生及び4年生を対象に加え、参加児童が50名から75名に拡大しました。</p> <p>事後アンケートを実施し、楽しかったが84.78%、来年も参加してみたいが71.74%で、高い評価を得ています。</p>
--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	高学年を対象とした事業から中学年を含めた講座の開設により、希望者が予定募集人数から大幅に増え、事業費、事業内容の見直しが必要です。
改善策	委託業者とカリキュラム、講座時間、対象者の検討を行い、教育委員会指導主事の意見を踏まえ、より楽しく遊び・学ぶ講座として検討していきます。